



2022年3月期 第3四半期決算報告

2022年2月3日

株式会社 **ニコン**

1. 2022年3月期 第3四半期決算報告

2. 2022年3月期 通期見通し

2022年3月期 Q3 : ポイント



Q3	実績	<ul style="list-style-type: none">● 売上収益 : 1,333億円● 営業利益 : 148億円
	前年比	<ul style="list-style-type: none">● 売上収益 : 173億円減<ul style="list-style-type: none">- 映像事業での部品調達制約などによる販売台数減少のほか、 精機事業における半導体・FPD露光装置の販売台数減少により、減収● 営業利益 : 49億円増<ul style="list-style-type: none">- 精機事業の減収影響を、映像、ヘルスケア、コンポーネントの3セグメントの増益で補い、増益
Q1-Q3	実績	<ul style="list-style-type: none">● 売上収益 : 4,063億円● 営業利益 : 469億円
	前年比	<ul style="list-style-type: none">● 売上収益 : 801億円増● 営業利益 : 836億円増

注：本資料で使用している数値は、億円未満は切り捨ててあります

2022年3月期 Q3：連結売上収益・損益



単位：億円	21年3月期 Q3実績	22年3月期 Q3実績	前年比	20年3月期 Q3実績 (参考)
売上収益	1,506	1,333	▲173	1,534
営業利益	99	148	+49	40
営業利益率	6.6%	11.1%		2.6%
税引前利益	109	166	+57	58
税引前利益率	7.2%	12.5%		3.8%
当期利益 (親会社の所有者に帰属)	81	126	+45	39
当期利益率	5.4%	9.5%		2.5%
FCF	225	36	▲189	8
為替：USドル	105円	114円	売上収益への影響 +62	109円
ユーロ	125円	130円	営業利益への影響 +18	120円

20年3月期及び前年に対し、損益分岐点の向上により収益性改善し、利益率が改善

2022年3月期 Q3：セグメント別業績



単位：億円		21年3月期 Q3実績	22年3月期 Q3実績	前年比
映像事業	売上収益	524	468	▲10.7%
	営業利益	▲8	63	+71億円
精機事業	売上収益	666	437	▲34.4%
	営業利益	114	31	▲83億円
ヘルスケア事業	売上収益	171	202	+18.1%
	営業利益	7	19	+12億円
コンポーネント事業	売上収益	77	139	+80.5%
	営業利益	12	67	+55億円
産業機器・その他	売上収益	69	89	+29.0%
	営業利益	5	17	+12億円
各セグメントに配賦 されない全社損益	売上収益	-	-	-
	営業利益	▲35	▲48	▲13億円
連結	売上収益	1,506	1,333	▲11.5%
	営業利益	99	148	+49億円

営業利益は、前年比で精機事業を除き増益。すべての事業セグメントで黒字を確保

注：2021年4月に「映像事業」「精機事業」「コンポーネント事業」に関連する一部の生産子会社を「産業機器・その他」に移管し、2021年3月期へ遡及適用

2022年3月期 Q1-Q3：連結売上収益・損益



単位：億円	21年3月期 Q1-Q3実績	22年3月期 Q1-Q3実績	前年比	20年3月期 Q1-Q3実績
売上収益	3,262	4,063	+801	4,444
営業利益	▲367	469	+836	215
営業利益率	▲11.3%	11.5%		4.8%
税引前利益	▲279	525	+804	259
税引前利益率	▲8.6%	12.9%		5.8%
当期利益 (親会社の所有者に帰属)	▲234	390	+624	202
当期利益率	▲7.2%	9.6%		4.5%
FCF	104	244	+140	47
為替：USDドル	106円	111円	売上収益への影響 +146	109円
ユーロ	122円	131円	営業利益への影響 +46	121円

2022年3月期 Q1-Q3：セグメント別業績



単位：億円		21年3月期 Q1-Q3実績	22年3月期 Q1-Q3実績	前年比
映像事業	売上収益	1,167	1,360	+16.5%
	営業利益	▲286	188	+474億円
精機事業	売上収益	1,304	1,629	+24.9%
	営業利益	40	248	+208億円
ヘルスケア事業	売上収益	428	532	+24.3%
	営業利益	▲16	28	+44億円
コンポーネント事業	売上収益	181	306	+69.1%
	営業利益	3	101	+98億円
産業機器・その他	売上収益	181	235	+29.8%
	営業利益	0	1	+1億円
各セグメントに配賦 されない全社損益	売上収益	-	-	-
	営業利益	▲109	▲98	+11億円
連結	売上収益	3,262	4,063	+24.6%
	営業利益	▲367	469	+836億円

全ての事業セグメントで増収増益となり黒字を確保

注：2021年4月に「映像事業」「精機事業」「コンポーネント事業」に関連する一部の生産子会社を「産業機器・その他」に移管し、2021年3月期へ遡及適用

2022年3月期 Q3 : 映像事業



単位：億円	21年3月期		22年3月期		前年比	
	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計
売上収益	524	1,167	468	1,360	▲56	+193
営業利益	▲8	▲286	63	188	+71	+474
営業利益率	▲1.5%	▲24.5%	13.5%	13.8%		
レンズ交換式 デジタルカメラ	28万台	66万台	16万台	55万台	▲12	▲11
交換レンズ	47万本	108万本	36万本	102万本	▲11	▲6
コンパクト デジタルカメラ	8万台	20万台	4万台	17万台	▲4	▲3

- Q3前年比**：部品調達制約もあり、販売台数減少。本体・交換レンズ共に、ミラーレスが一眼レフを上回った12月発売のフラッグシップ機「Z 9」の効果もあり、プロ・趣味層向けモデルへのシフトで平均販売単価は上昇
 台数減少影響が平均販売単価効果を上回り、減収
 営業利益は、平均販売単価の上昇に加え、事業運営費削減効果もあり、増益

注：2021年4月に「映像事業」「精機事業」「コンポーネント事業」に関連する一部の生産子会社を「産業機器・その他」に移管し、2021年3月期へ遡及適用

2022年3月期 Q3：精機事業



単位：億円	21年3月期		22年3月期		前年比	
	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計
売上収益	666	1,304	437	1,629	▲229	+325
営業利益	114	40	31	248	▲83	+208
営業利益率	17.1%	3.1%	7.1%	15.2%		
FPD露光装置	12台	17台	7台	37台	▲5台	+20台
半導体露光装置 新品／中古	5/2台	11/5台	3/5台	4/14台	▲2/+3台	▲7/+9台

- **Q3前年比**：大型パネル用FPD露光装置や新品の半導体露光装置の販売台数が減少
サービスビジネスは、FPD装置事業・半導体装置事業ともに好調に推移したものの、減収減益

注：2021年4月に「映像事業」「精機事業」「コンポーネント事業」に関連する一部の生産子会社を「産業機器・その他」に移管し、2021年3月期へ遡及適用

2022年3月期 Q3：ヘルスケア事業



単位：億円	21年3月期		22年3月期		前年比	
	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計
売上収益	171	428	202	532	+31	+104
営業利益	7	▲16	19	28	+12	+44
営業利益率	4.1%	▲3.7%	9.4%	5.3%		

- **Q3前年比**：生物顕微鏡・網膜画像診断機器共に、北米や欧州を中心として好調に推移し、事業全体で増収増益
営業利益では、四半期ベースで過去最高額を記録

2022年3月期 Q3 : コンポーネント事業



単位：億円	21年3月期		22年3月期		前年比	
	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計
売上収益	77	181	139	306	+62	+125
営業利益	12	3	67	101	+55	+98
営業利益率	15.6%	1.7%	48.2%	33.0%		

- **Q3前年比** : EUV関連コンポーネントが売上・利益拡大に大きく寄与したほか、半導体関連製品向け光学部品、産業機器向けエンコーダやFPDフォトマスク基板の販売も好調に推移し、増収増益

注：2021年4月に「映像事業」「精機事業」「コンポーネント事業」に関連する一部の生産子会社を「産業機器・その他」に移管し、2021年3月期へ遡及適用

2022年3月期 Q3：産業機器・その他



単位：億円	21年3月期		22年3月期		前年比	
	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計
売上収益	69	181	89	235	+20	+54
営業利益	5	0	17	1	+12	+1
営業利益率	7.2%	0.0%	19.1%	0.4%		

- **Q3前年比**：産業機器事業において、半導体・電子部品業界の活況を背景に、画像測定システム・工業用顕微鏡の販売が好調で、増収増益

注：2021年4月に「映像事業」「精機事業」「コンポーネント事業」に関連する一部の生産子会社を「産業機器・その他」に移管し、2021年3月期へ遡及適用

1. 2022年3月期 第3四半期決算報告

2. 2022年3月期 通期見通し

2022年3月期 通期見通し：ポイント



売上収益

- **全社見通し 5,500億円**（前回予想から150億円上方修正）
 - 映像事業： 製品ミックスの改善や為替影響等により、50億円上方修正
 - 精機事業： サービス収入の増加や為替影響等により、30億円上方修正
 - ヘルスケア事業： Q3販売実績を反映し、30億円上方修正
 - コンポーネント事業： EUV関連コンポーネント・光学部品・エンコーダの販売増等を見込み、40億円上方修正

営業利益

- **全社見通し 470億円**（前回予想から130億円上方修正）
 - 映像事業： 増収影響や経費抑制等により、50億円上方修正
 - 精機事業： 増収影響や経費抑制等により、25億円上方修正
 - ヘルスケア事業： 増収影響や経費抑制等により、15億円上方修正
 - コンポーネント事業： 増収影響や経費抑制等により、40億円上方修正

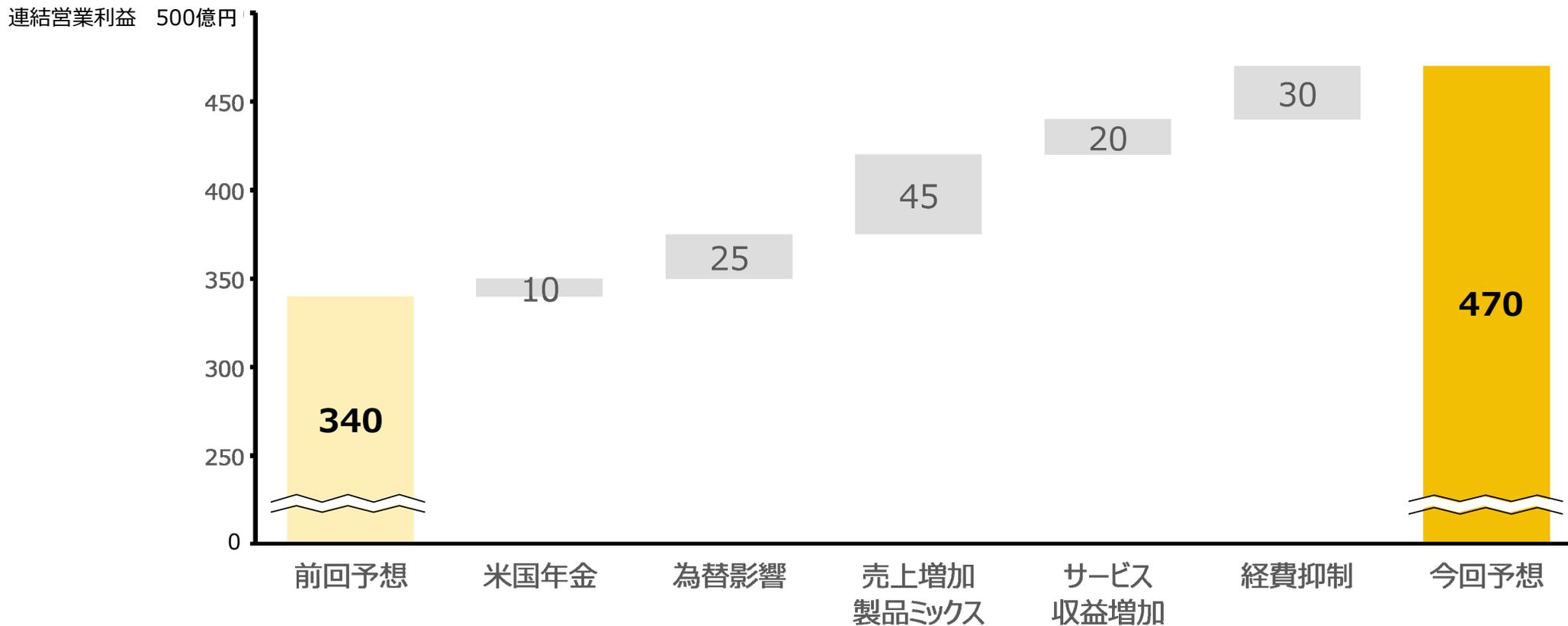
当期利益 (親会社の所有者に帰属)

- **全社見通し 390億円**（前回予想から100億円上方修正）

株主還元

- **年間配当金40円、中間配当金20円**（前回予想据え置き）

2022年3月期 通期見通し：前回予想からの営業利益の変化



為替影響の他、売上増加や経費抑制などにより、大幅に上方修正

注:米国年金：米国子会社の年金制度の変更に伴う一時的な利益を上期に計上。下期に略同額を営業費用に計上予定であったが、一部が資本（その他の包括利益）へ計上となり、営業利益は予想比上振れ

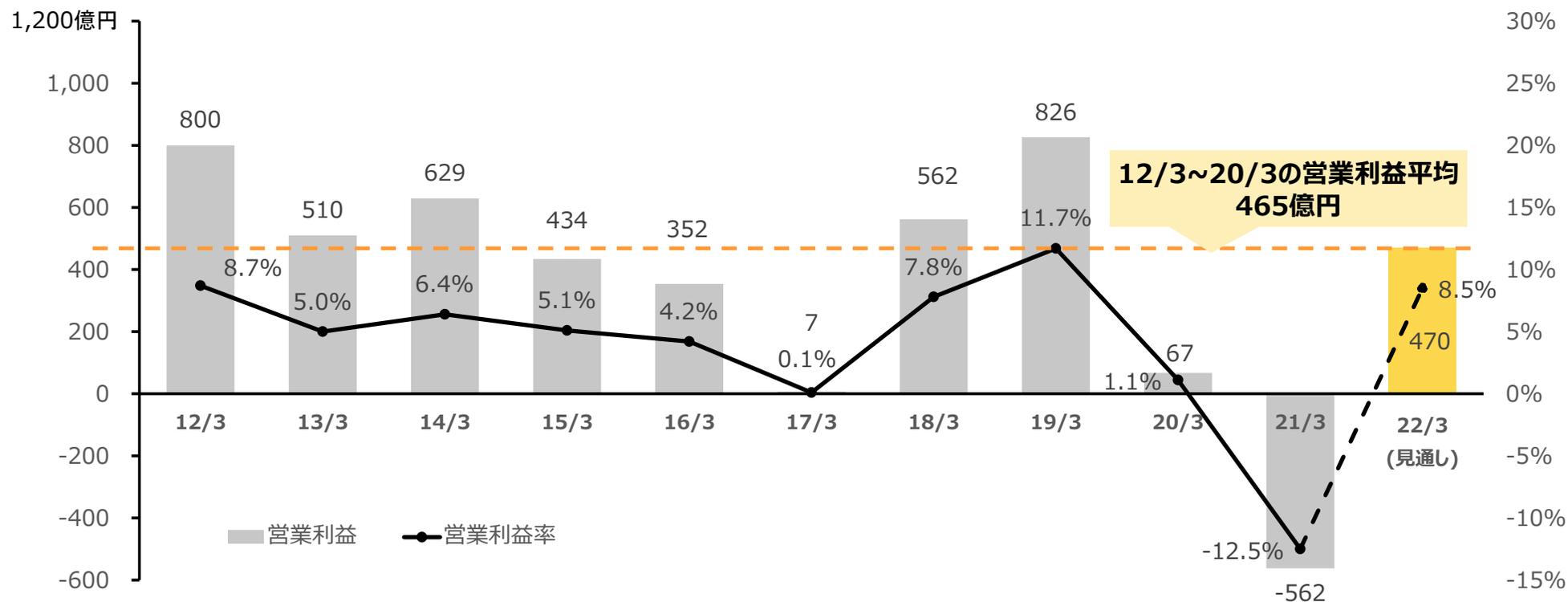
2022年3月期 通期見通し：連結売上収益・損益



単位：億円	21年3月期 実績	前回予想 (11/4)	今回予想 (2/3)	前年比	前回予想比
売上収益	4,512	5,350	5,500	+988	+150
営業利益	▲562	340	470	+1,032	+130
営業利益率	▲12.5%	6.4%	8.5%		
税引前利益	▲453	390	530	+983	+140
税引前利益率	▲10.0%	7.3%	9.6%		
当期利益 (親会社の所有者に帰属)	▲344	290	390	+734	+100
当期利益率	▲7.6%	5.4%	7.1%		
EPS	▲93.96円	78.98円	106.21円	+200.17円	+27.23円
年間配当	20円	40円	40円	+20円	±0円
為替：USドル	106円	107円	112円	売上収益への予想影響 (億円)	
				+191	+106
ユーロ	124円	128円	130円	営業利益への予想影響 (億円)	
				+56	+26

注：EPS（基本的1株当たり当期利益）＝当期利益÷期中平均株式数（21年3月期実績・22年3月期予想共に約3.67億株で計算）

2022年3月期 通期見通し：過去10年間からの営業利益推移



2022年3月期の営業利益は、コロナ影響以前の平均値並みまで回復する見込み

注：2015年3月期以前は日本基準

2022年3月期 通期見通し：セグメント別業績

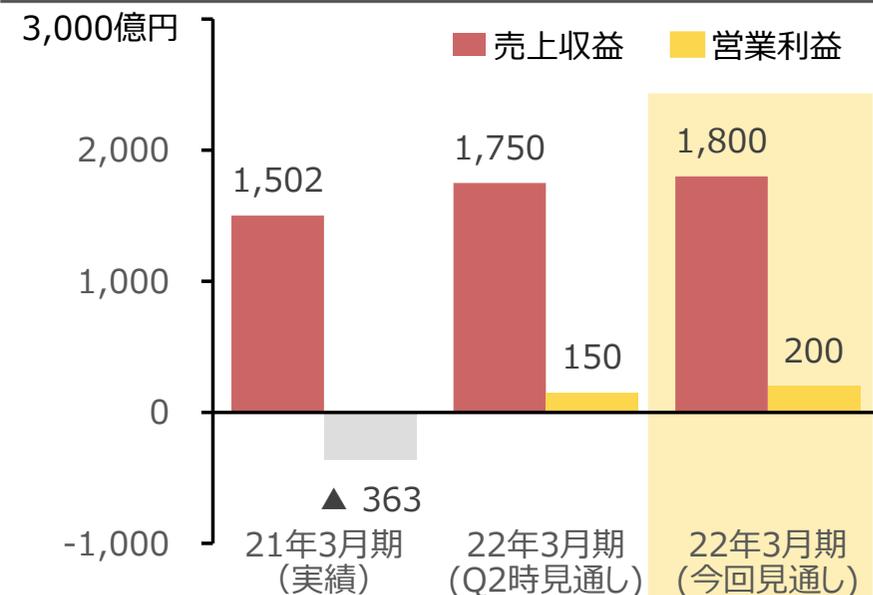


単位：億円		21年3月期実績	前回予想 (11/4)	今回予想 (2/3)	前年実績比	前回予想比
映像事業	売上収益	1,502	1,750	1,800	+19.8%	+2.9%
	営業利益	▲363 (▲330)	150	200	+563億円	+50億円
精機事業	売上収益	1,847	2,170	2,200	+19.1%	+1.4%
	営業利益	▲6 (▲6)	230	255	+261億円	+25億円
ヘルスケア事業	売上収益	628	700	730	+16.2%	+4.3%
	営業利益	▲30 (▲30)	20	35	+65億円	+15億円
コンポーネント事業	売上収益	257	380	420	+63.4%	+10.5%
	営業利益	1 (1)	85	125	+124億円	+40億円
産業機器・その他	売上収益	276	350	350	+26.8%	±0.0%
	営業利益	▲12 (▲3)	15	15	+27億円	±0億円
各セグメントに配賦 されない全社損益	売上収益	-	-	-	-	-
	営業利益	▲150 (▲150)	▲160	▲160	▲10億円	±0億円
連結	売上収益	4,512	5,350	5,500	+21.9%	+2.8%
	営業利益	▲562 (▲519)	340	470	+1,032億円	+130億円

注：営業利益の（ ）内数値は、構造改革関連費用を除いた値

2021年4月に「映像事業」「精機事業」「コンポーネント事業」に関連する一部の生産子会社を「産業機器・その他」に移管し、2021年3月期へ遡及適用

2022年3月期 通期見通し：映像事業



● 売上収益：50億円上方修正、前年比298億円増収

- 部品調達制約により市場、当社販売台数共に減少を見込む
- ミラーレスのフラッグシップモデル「Z 9」の販売・予約注文は好調。「Zマウント」対応レンズのラインアップも拡充し、プロ・趣味層へのニーズ充足を進める
- 為替レートの見直しに加え、製品ミックス改善による平均販売単価の改善により、上方修正
- 部品調達問題へ対応注力も、影響は来期にも及ぶ見込み

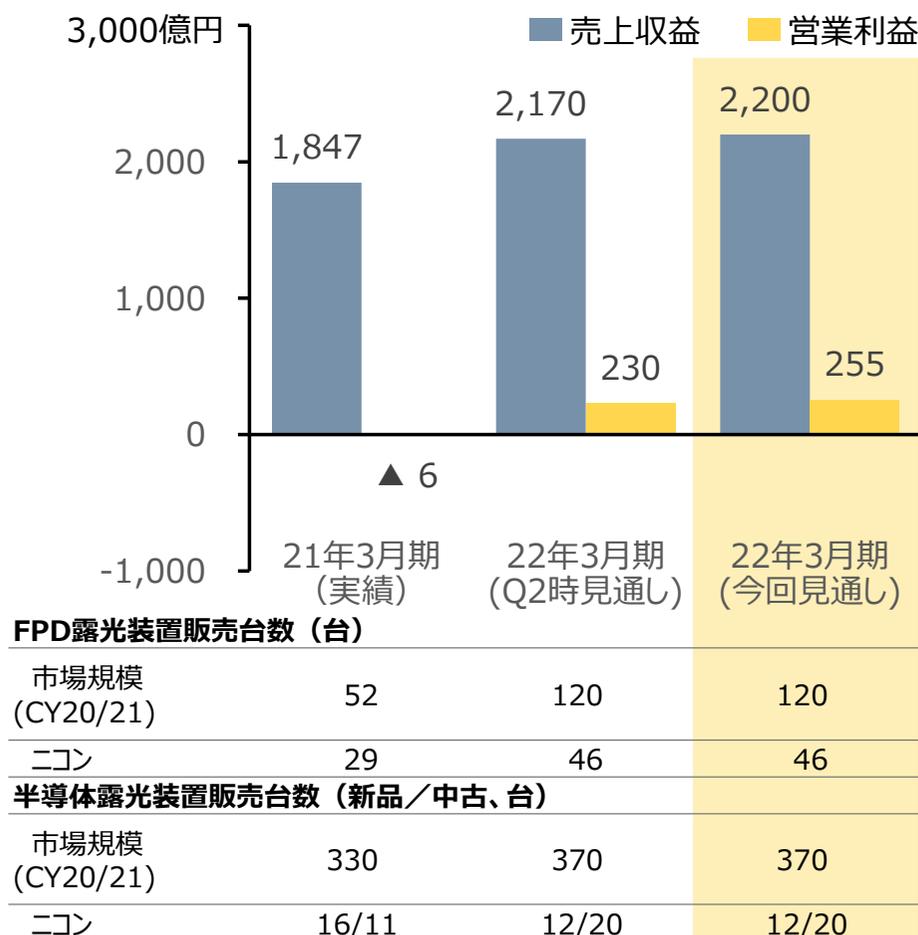
● 営業利益：50億円上方修正、前年比563億円増益

- 構造改革は今期末まで継続。中計3年間累計で事業運営費630億円削減
- Q4営業利益は、新製品関連費用集中により、前Q比減益を見込む
- 通期営業利益は、為替影響や製品ミックスの改善により、前回予想より上振れ
営業利益率は10%超へ

レンズ交換式デジタルカメラ (万台)			
市場規模	552	540	520
ニコン	84	75	70
交換レンズ (万本)			
市場規模	911	920	920
ニコン	135	130	130
コンパクトデジタルカメラ (万台)			
市場規模	343	285	285
ニコン	26	20	20

注：2021年4月に「映像事業」「精機事業」「コンポーネント事業」に関連する一部の生産子会社を「産業機器・その他」に移管し、2021年3月期へ遡及適用

2022年3月期 通期見通し：精機事業



● 売上収益：30億円上方修正、前年比353億円増収

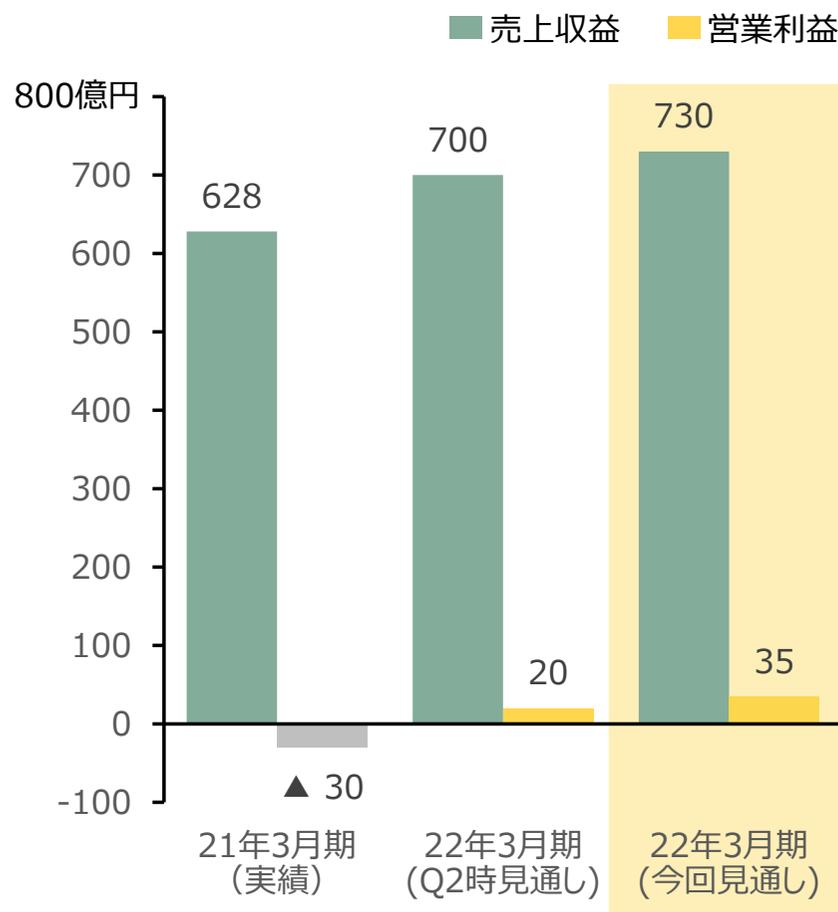
- FPD・半導体露光装置の販売は計画通りに推移
- サービスビジネスが好調に推移

● 営業利益：25億円上方修正、前年比261億円増益

- FPD・半導体の好調なサービスビジネスや経費抑制などにより、前回予想から25億円の上方修正を見込む

注：2021年4月に「映像事業」「精機事業」「コンポーネント事業」に関連する一部の生産子会社を「産業機器・その他」に移管し、2021年3月期へ遡及適用

2022年3月期 通期見通し：ヘルスケア事業



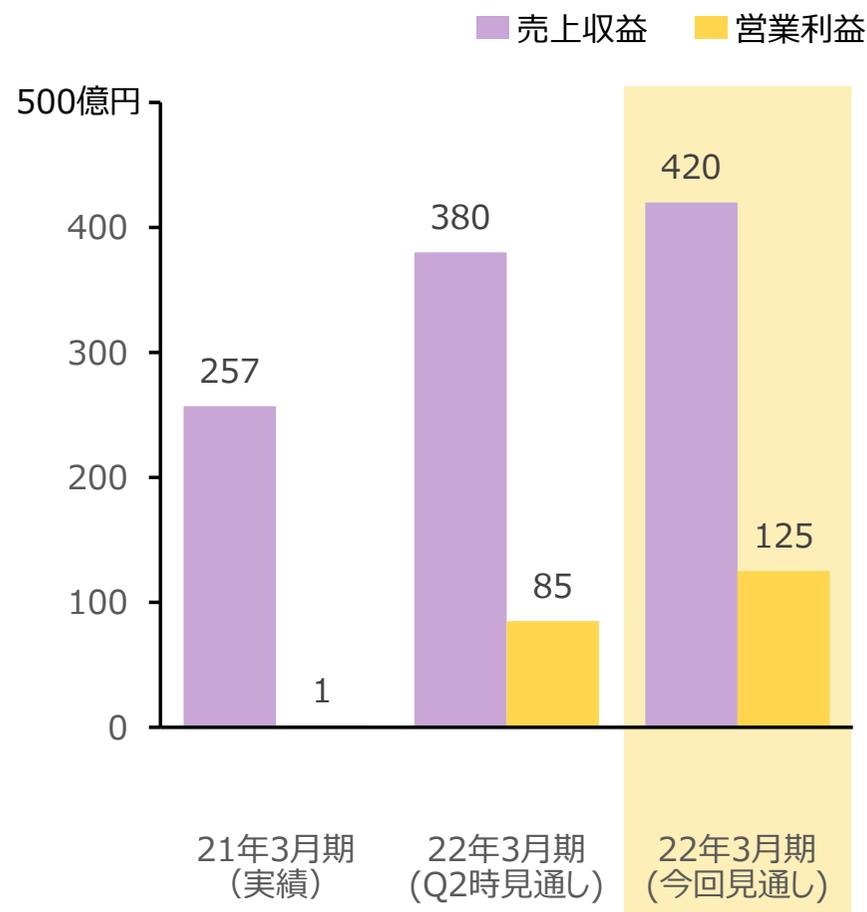
● 売上収益：30億円上方修正、前年比102億円増収

- 生物顕微鏡の堅調な需要に加え、網膜画像診断機器が前回の想定を上回り、好調に推移

● 営業利益：15億円上方修正、前年比65億円増益

- 増収効果のほか、経費抑制なども反映し、前回予想から15億円の上方修正を見込む

2022年3月期 通期見通し：コンポーネント事業



● 売上収益：40億円上方修正、前年比163億円増収

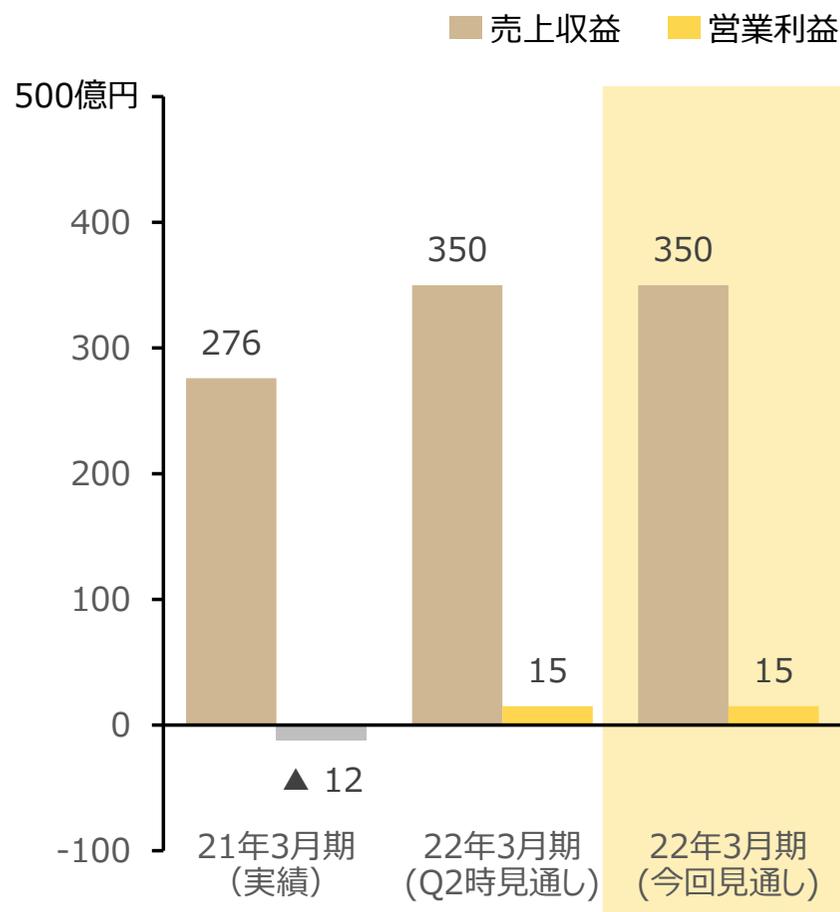
- EUV関連コンポーネントの販売増加を見込む
- 半導体関連製品向け光学部品や産業機器向けエンコーダ等が好調に推移し、前回予想に対して上振れ

● 営業利益：40億円上方修正、前年比124億円増益

- 増収効果のほか、経費抑制なども反映し、前回予想から40億円の上方修正を見込む

注：今期からの開示であり、21年3月期実績および前年比較の上記コメントは、参考表記
2021年4月に「映像事業」「精機事業」「コンポーネント事業」に関連する一部の生産子会社を「産業機器・その他」に移管し、2021年3月期へ遡及適用

2022年3月期 通期見通し：産業機器・その他



- **売上収益：前回予想据え置き、前年比74億円増収**

- 産業機器事業では、工業用顕微鏡・画像測定システムなどの需要は引き続き堅調で、前年より増収

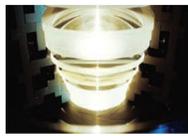
- **営業利益：前回予想据え置き、前年比27億円増益**

- 増収効果のほか、経費抑制なども反映し、前年より増益

注：2021年4月に「映像事業」「精機事業」「コンポーネント事業」に関連する一部の生産子会社を「産業機器・その他」に移管し、2021年3月期へ遡及適用

參考資料

ニコンの事業セグメントと主な製品

事業セグメント	主な事業、製品	製品例			
映像事業	レンズ交換式デジタルカメラ 交換レンズ コンパクトデジタルカメラ	 ミラーレスカメラ「Z 9」	 ミラーレスカメラ「Z fc」	 「NIKKOR」レンズ	 「NIKKOR Z 70-200mm f/2.8 VR S」
精機事業	FPD露光装置 半導体露光装置 アライメントステーション 計測・検査装置	 FPDスキャナー 「FX-103S/SH」	 ArF液浸スキャナー 「NSR-S635E」	 アライメントステーション 「Litho Booster」	 自動マクロ検査装置 「AMI-5700」
ヘルスケア事業	生物顕微鏡 網膜画像診断機器 細胞受託生産	 共焦点レーザー顕微鏡システム 「AX/AX R」	 SS-OCT付き 超広角走査型レーザー検眼鏡 「Silverstone」	 細胞観察装置 「BioStudio-T」	
コンポーネント事業	EUV関連コンポーネント 光学コンポーネント、光学部品 エンコーダ・アクチュエータ FPDフォトマスク基板 光加工機・材料加工受託	 光学コンポーネント	 インテリジェントアクチュエータユニット 「C3 eMotion」	 FPDフォトマスク基板	 光加工機「Lasermeister 102A」
産業機器・その他	測定機 X線検査装置 工業用顕微鏡	 CNC画像測定システム 「NEXIV VMZ-S」シリーズ	 X線CT検査装置 「XT H 225 ST 2x」	 大規模空間非接触測定機 「APDIS」シリーズ	

2022年3月期 通期見通し：連結売上収益・損益



単位：億円	19年3月期	20年3月期	21年3月期			22年3月期 見通し		
	通期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上収益	7,086	5,910	1,756	2,756	4,512	2,730	2,770	5,500
営業利益	826	67	▲466	▲96	▲562	321	149	470
営業利益率	11.7%	1.1%	▲26.5%	▲3.5%	▲12.5%	11.8%	5.4%	8.5%
税引前利益	879	118	▲388	▲65	▲453	359	171	530
税引前利益率	12.4%	2.0%	▲22.1%	▲2.4%	▲10.0%	13.2%	6.2%	9.6%
当期利益 (親会社の所有者に帰属)	665	76	▲315	▲29	▲344	264	126	390
当期利益率	9.4%	1.3%	▲17.9%	▲1.1%	▲7.6%	9.7%	4.5%	7.1%
EPS	167.86円	19.93円	▲93.96円			106.21円		
年間配当	60円	40円	20円			40円		
ROE	11.2%	1.3%	▲6.4%			7.0%		
FCF	435	▲48	229			-		
為替：USドル	111円	109円	107円	105円	106円	110円	114円	112円
ユーロ	128円	121円	121円	126円	124円	131円	130円	130円

2022年3月期 通期見通し：セグメント別業績



単位：億円		19年3月期	20年3月期	21年3月期			22年3月期 見通し		
		通期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
映像事業	売上収益	2,961	2,258	643	859	1,502	892	908	1,800
	営業利益	220 (226)	▲171 (▲144)	▲278 (▲267)	▲85 (▲63)	▲363 (▲330)	125	75	200
精機事業	売上収益	2,745	2,450	638	1,209	1,847	1,192	1,008	2,200
	営業利益	817 (817)	480 (480)	▲74 (▲74)	68 (68)	▲6 (▲6)	217	38	255
ヘルスケア事業	売上収益	654	620	257	371	628	330	400	730
	営業利益	▲19 (▲19)	▲24 (▲24)	▲23 (▲23)	▲7 (▲7)	▲30 (▲30)	9	26	35
コンポーネント事業	売上収益	—	—	104	153	257	167	253	420
	営業利益	—	—	▲9 (▲9)	10 (10)	1 (1)	34	91	125
産業機器・その他	売上収益	725	580	112	164	276	146	204	350
	営業利益	69 (75)	18 (18)	▲5 (▲4)	▲7 (1)	▲12 (▲3)	▲16	31	15
各セグメントに配賦 されない全社損益	売上収益	—	—	—	—	—	—	—	—
	営業利益	▲261 (▲256)	▲236 (▲219)	▲74 (▲74)	▲76 (▲76)	▲150 (▲150)	▲50	▲110	▲160
連結	売上収益	7,086	5,910	1,756	2,756	4,512	2,730	2,770	5,500
	営業利益	826 (844)	67 (112)	▲466 (▲453)	▲96 (▲66)	▲562 (▲519)	321	149	470

注：営業利益の（）内数値は、構造改革関連費用を除いた値

2021年4月に「映像事業」「精機事業」「コンポーネント事業」に関連する一部の生産子会社を「産業機器・その他」に移管し、2021年3月期へ遡及適用

2022年3月期 Q3: セグメント別業績



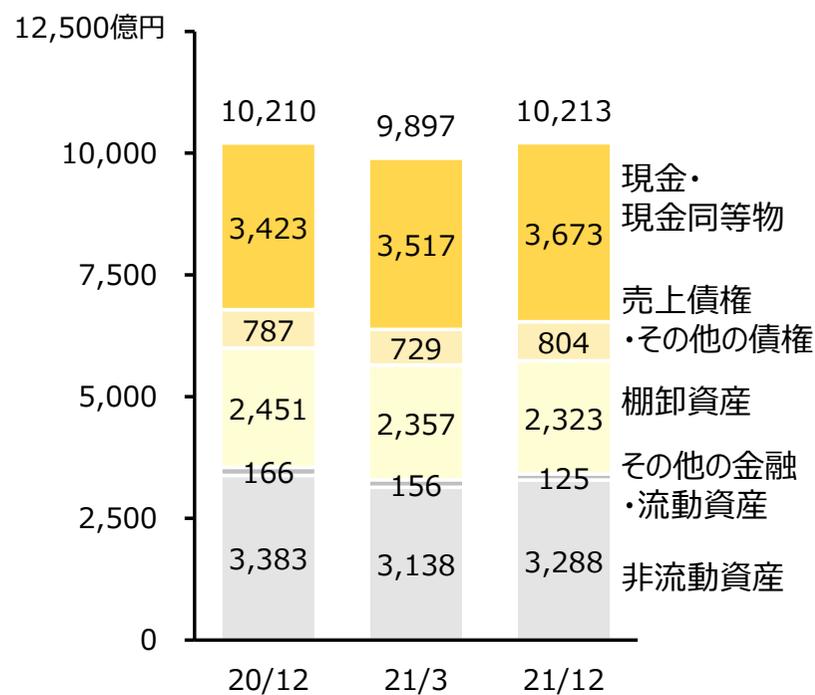
単位：億円		2021年3月期				2022年3月期		
		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3
映像事業	売上収益	251	392	524	335	500	392	468
	営業利益	▲83 (▲80)	▲195 (▲187)	▲8 (▲2)	▲77 (▲61)	92	33	63
精機事業	売上収益	196	442	666	543	518	674	437
	営業利益	▲57 (▲57)	▲17 (▲17)	114 (114)	▲46 (▲46)	106	111	31
ヘルスケア事業	売上収益	103	154	171	200	158	172	202
	営業利益	▲24 (▲24)	1 (1)	7 (7)	▲14 (▲14)	4	5	19
コンポーネント事業	売上収益	46	58	77	76	77	90	139
	営業利益	▲3 (▲3)	▲6 (▲6)	12 (12)	▲2 (▲2)	21	13	67
産業機器・その他	売上収益	49	63	69	95	67	79	89
	営業利益	9 (9)	▲14 (▲13)	5 (6)	▲12 (▲5)	▲10	▲6	17
各セグメントに配賦 されない全社損益	売上収益	—	—	—	—	—	—	—
	営業利益	▲46 (▲46)	▲28 (▲28)	▲35 (▲35)	▲41 (▲41)	▲15	▲35	▲48
連結	売上収益	647	1,109	1,506	1,250	1,322	1,408	1,333
	営業利益	▲205 (▲202)	▲261 (▲251)	99 (105)	▲195 (▲171)	199	122	148

注：営業利益の（）内数値は、構造改革関連費用を除いた値
2021年4月に「映像事業」「精機事業」「コンポーネント事業」に関連する一部の生産子会社を「産業機器・その他」に移管し、2021年3月期へ遡及適用

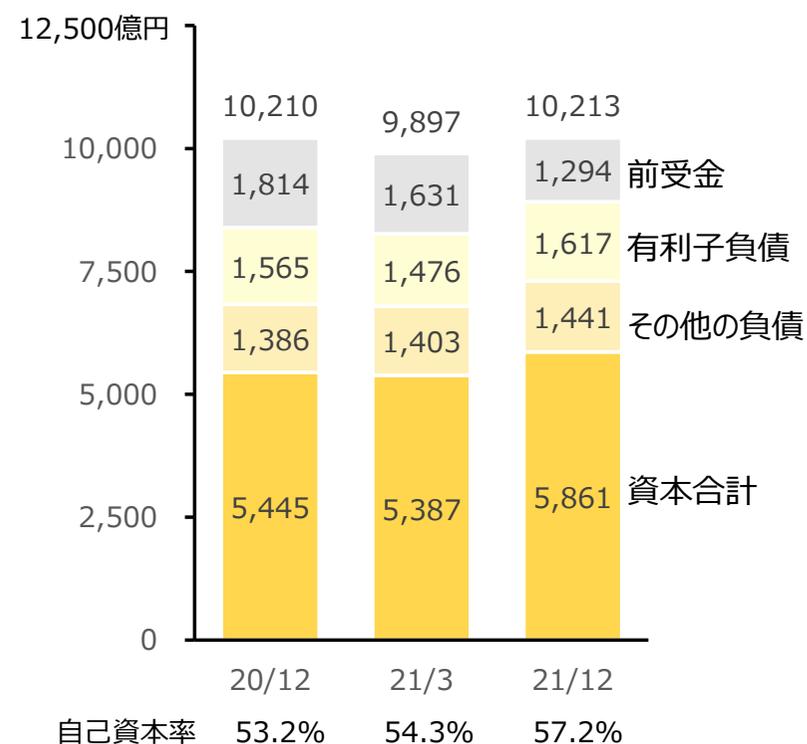
2022年3月期 Q3：財政状態計算書



資産



負債・資本

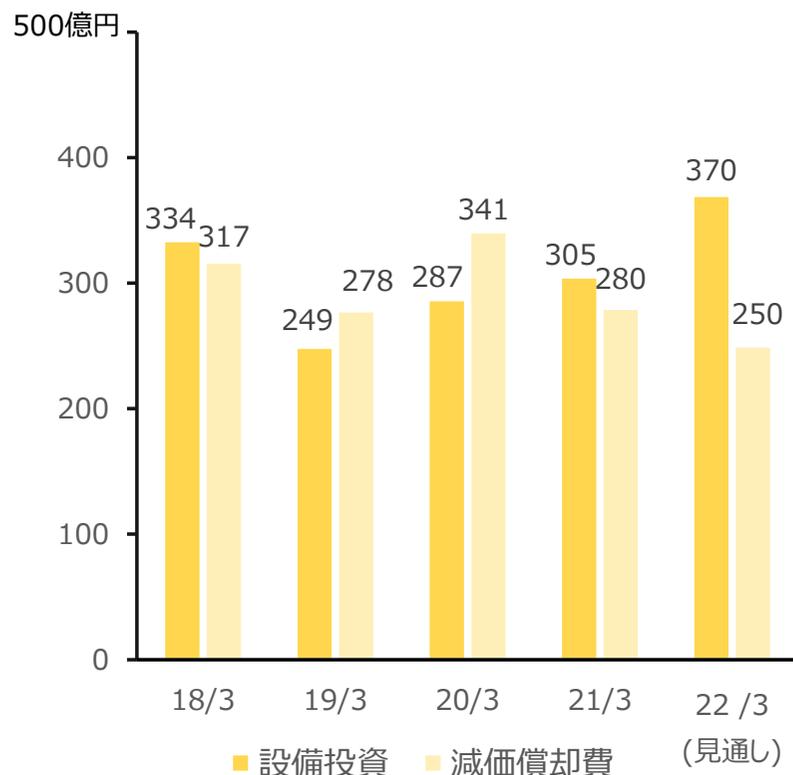


注：自己資本比率＝親会社所有者帰属持分比率。現金・現金同等物には3ヶ月超の定期預金残高を含めず表示

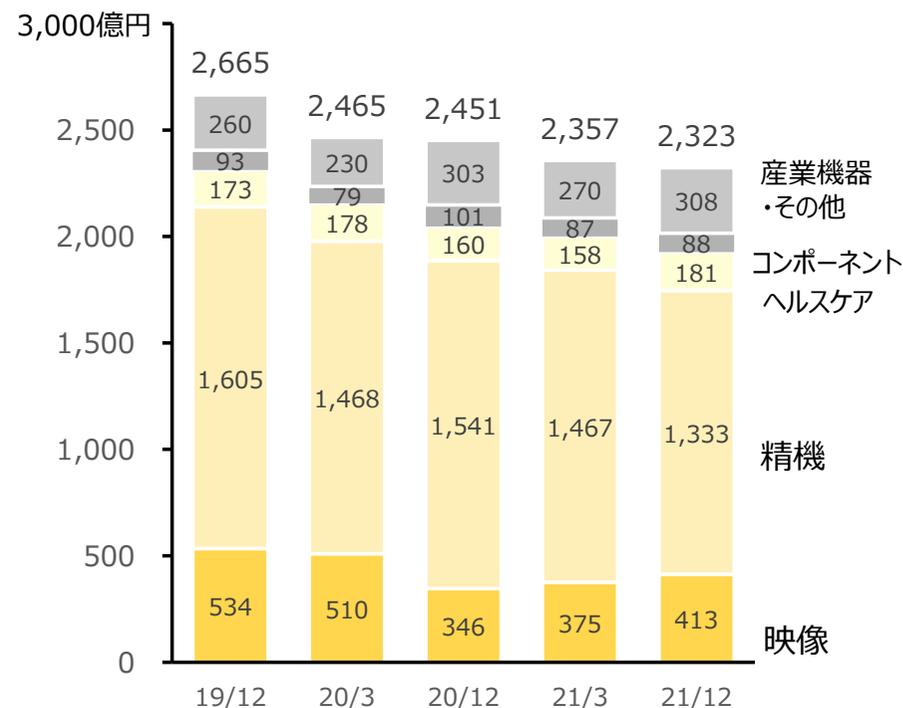
2022年3月期 通期見通し：設備投資・減価償却費・棚卸資産



設備投資・減価償却費



棚卸資産

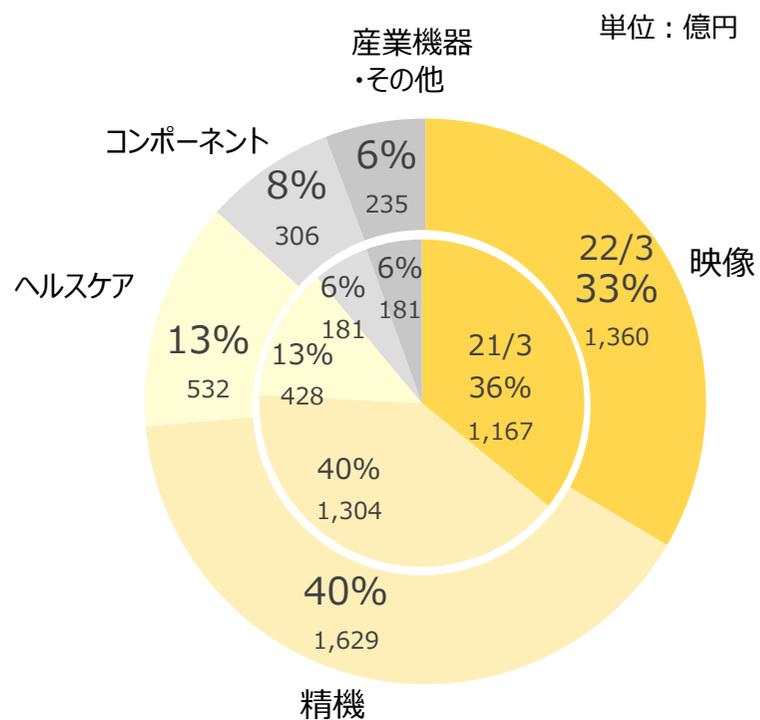


注：「設備投資」 2020年3月期以降、IFRS第16号適用。2020年3月期の設備投資額にはリース資産約40億円が、2020年3月期の設備投資額には本社ビルの賃料がそれぞれ含まれる
 「減価償却費」 2018年3月期以降は仕掛開発費の償却も含めて表示、2020年3月期以降は設備投資と同様に使用権資産の償却も含めて表示
 「棚卸資産」 産業機器・その他に属していた半導体関連製品事業を精機事業に移管し、2021年3月期への遡及適用した結果、2020年12月末で37億円、2021年3月末で24億円の残高を組替

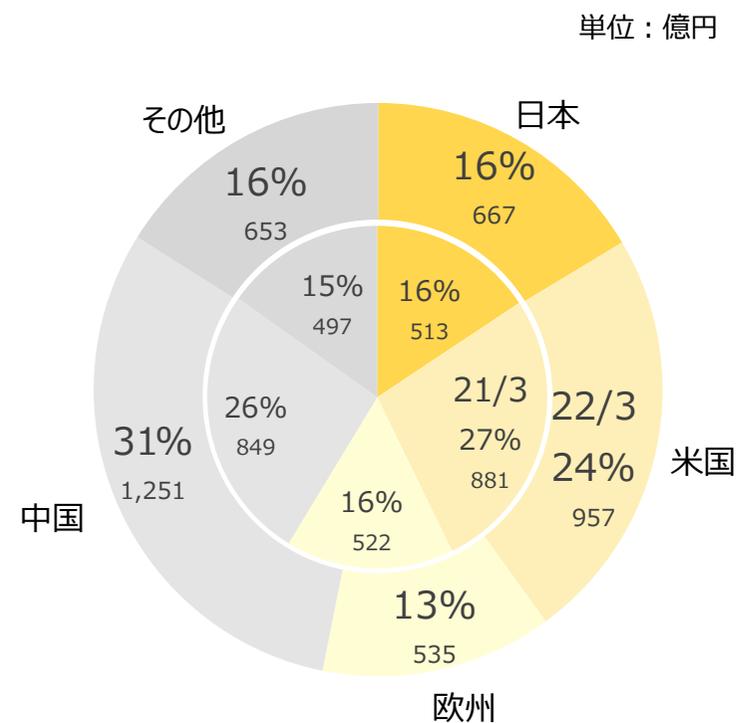
2022年3月期 Q1-Q3：売上収益内訳



セグメント別内訳



地域別内訳

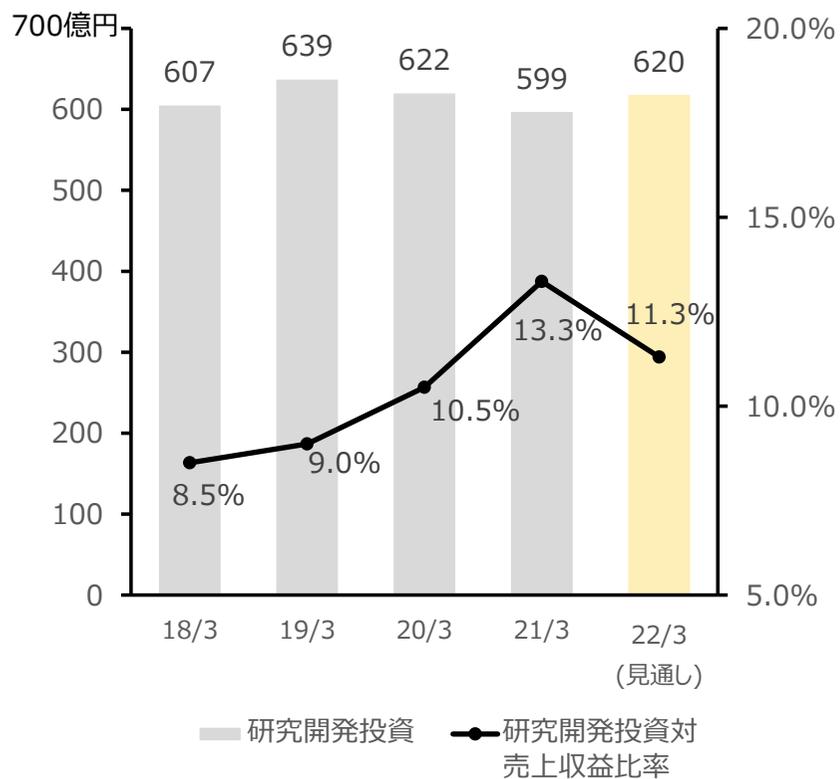


注：外円は「2022年3月期 Q3累計 売上収益4,063億円」の内訳、内円は「2021年3月期 Q3累計 売上収益3,262億円」の内訳を表示

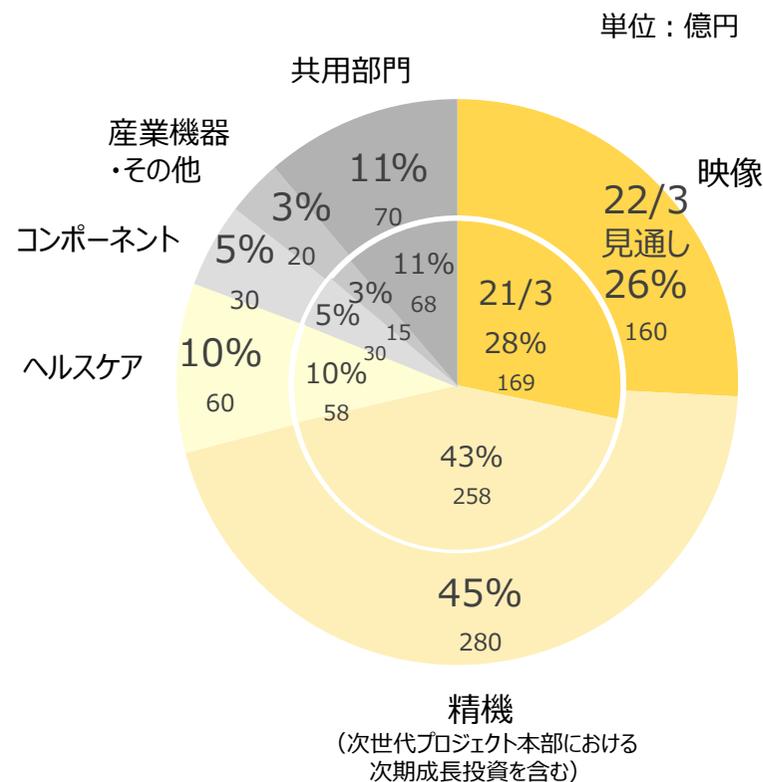
2022年3月期 通期見通し：研究開発投資



研究開発投資

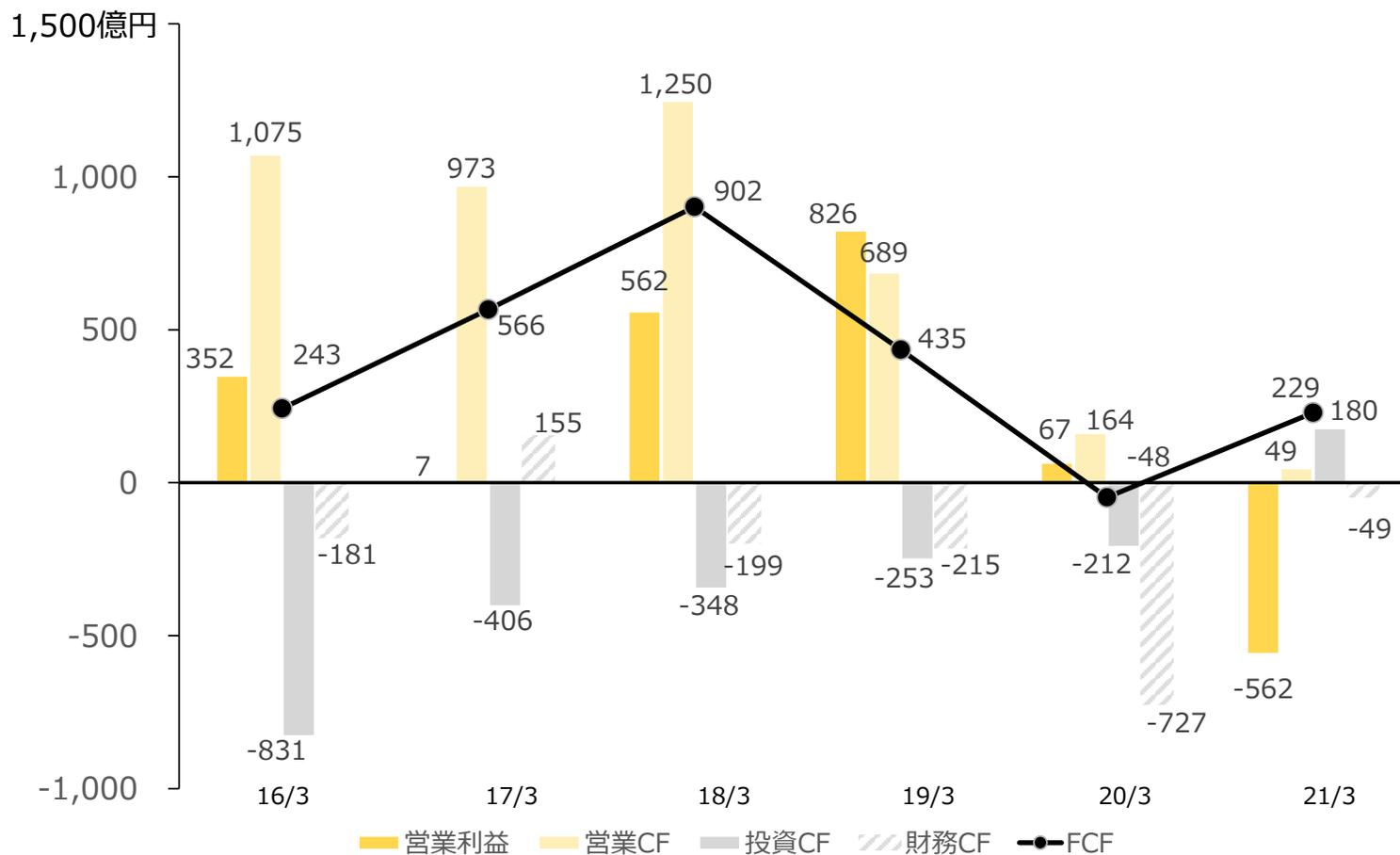


研究開発投資内訳



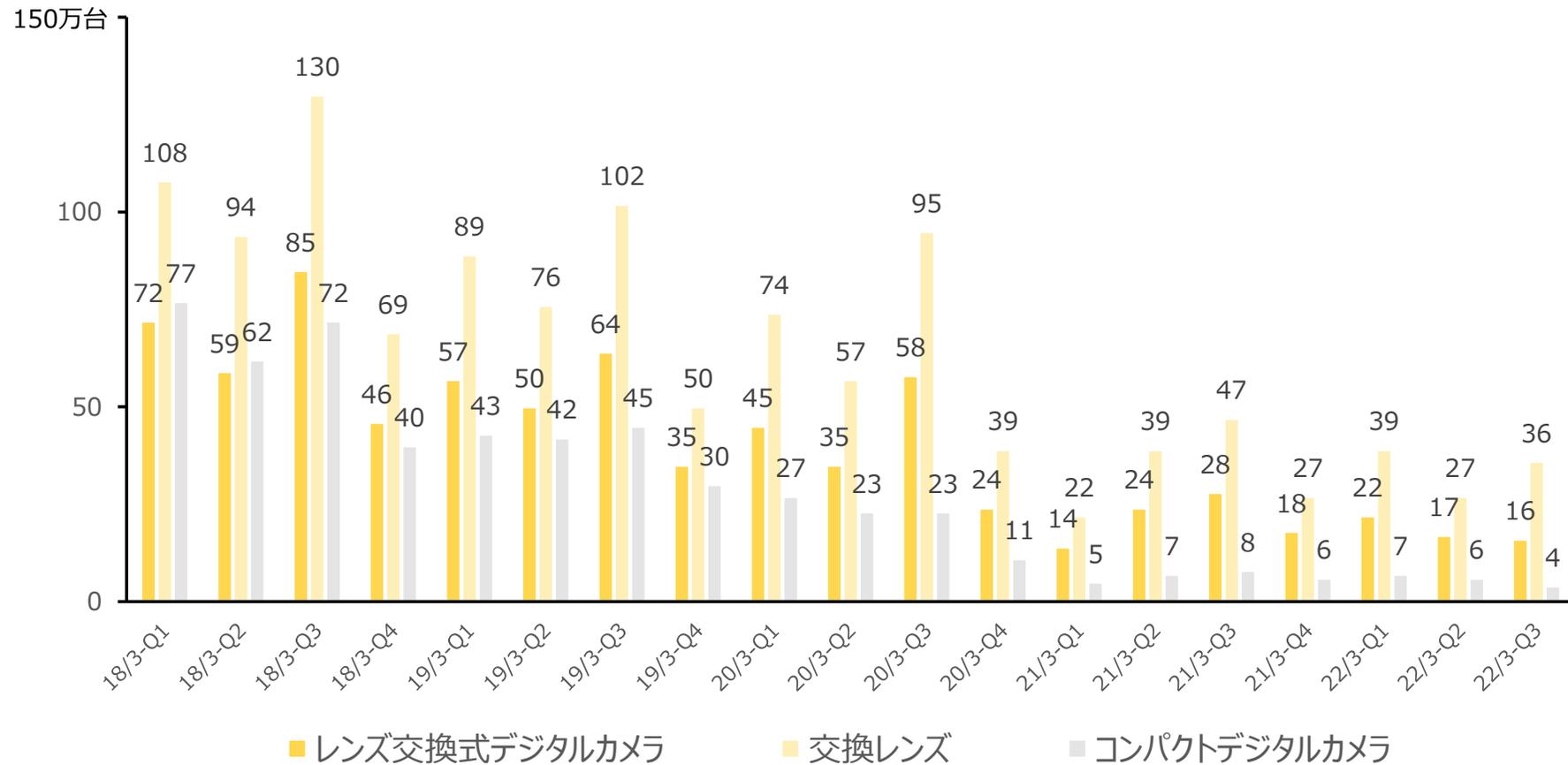
注：「研究開発投資」には、2018年3月期以降に行っている開発投資の一部資産化も含めて表示

キャッシュフロー推移



注: FCF + 財務CF + 現金・現金同等物に係る換算差額 = 現金・現預金同等物期末残高増減

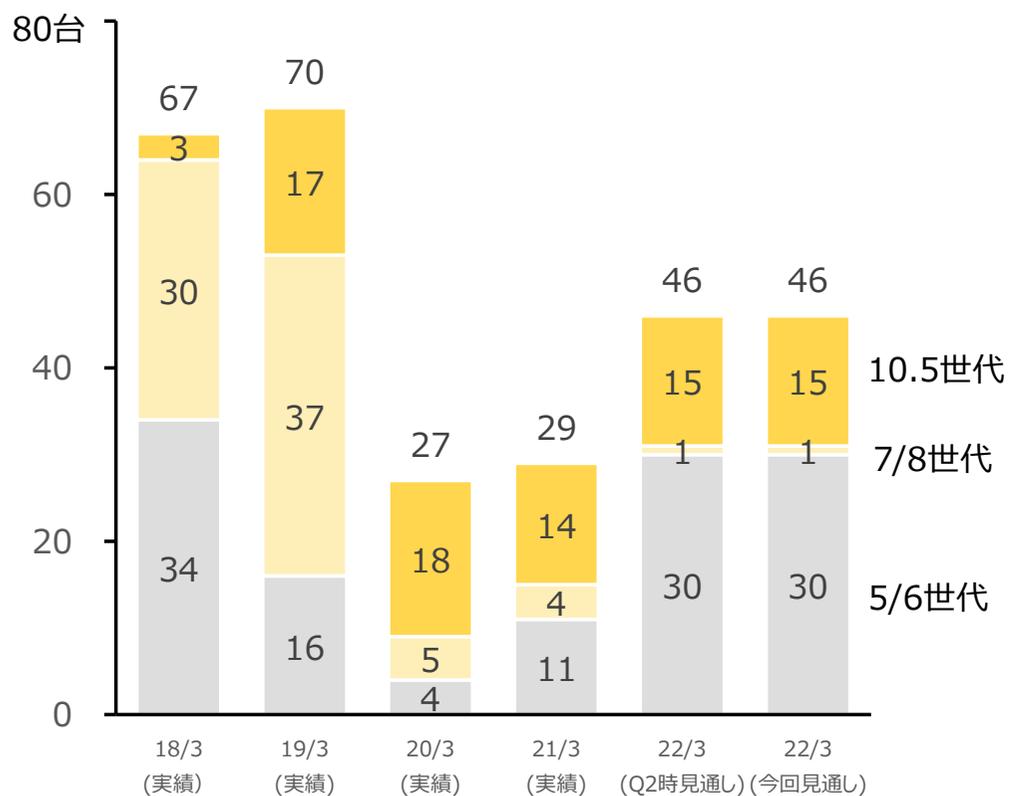
製品カテゴリー別内訳



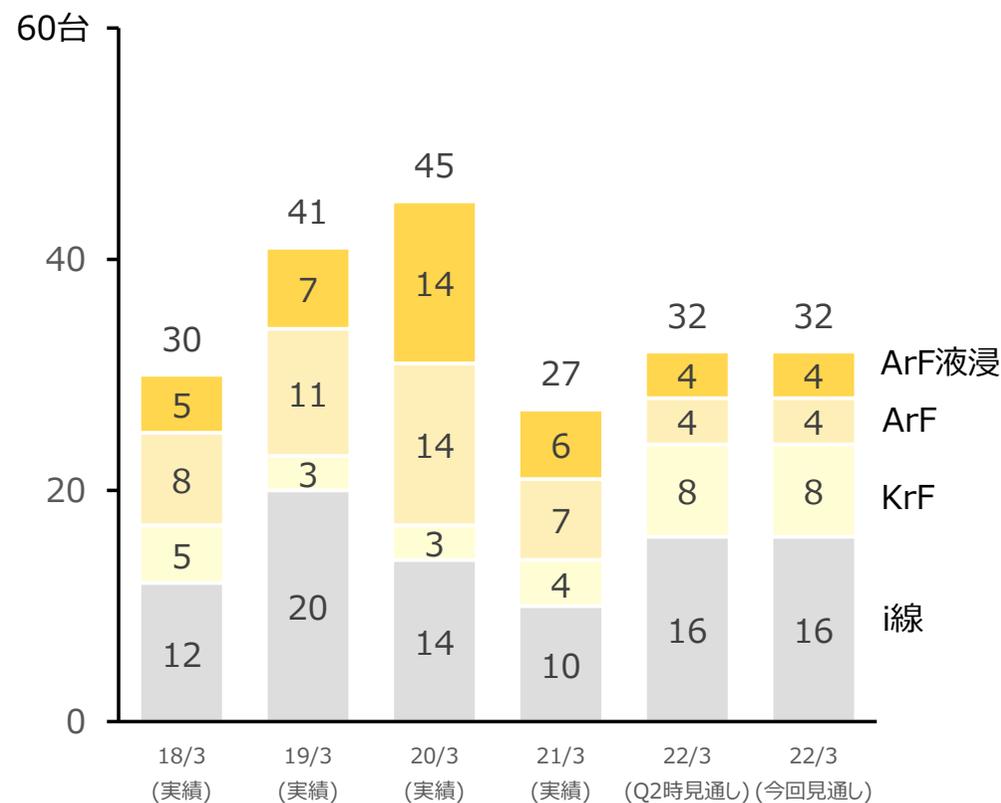
2022年3月期 通期見通し：精機事業 販売台数



FPD露光装置世代別内訳

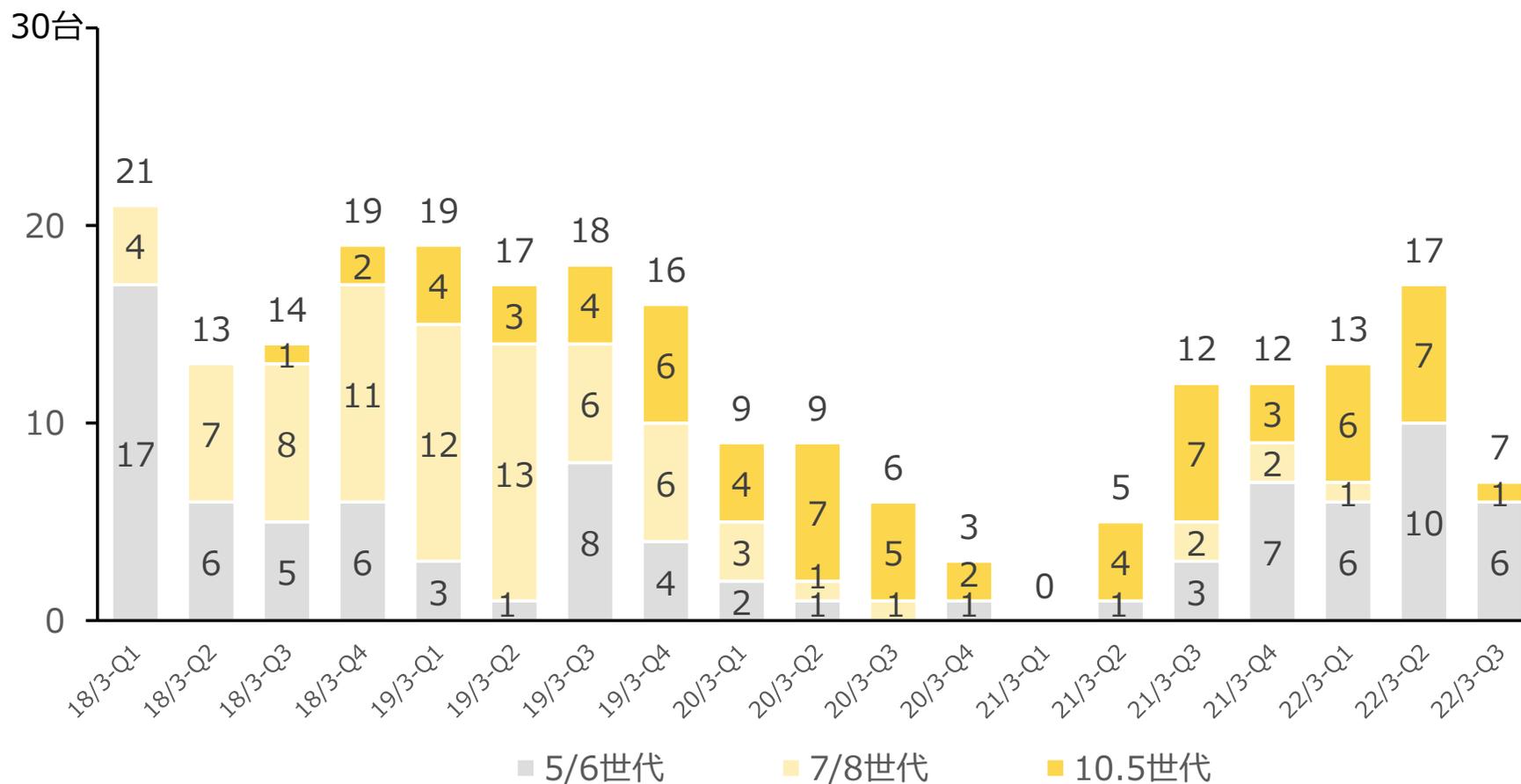


半導体露光装置光源別内訳 (中古含む)

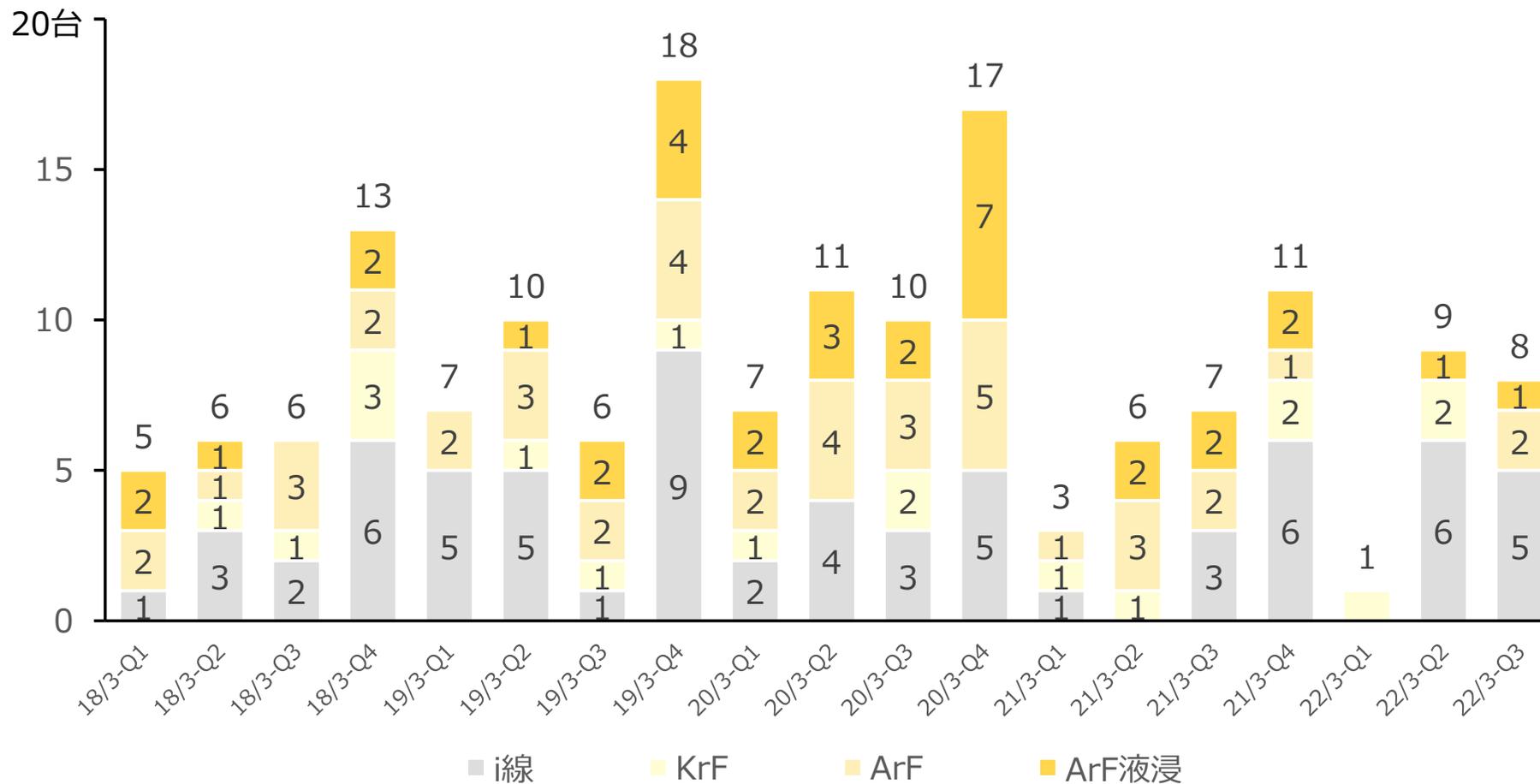


注：半導体露光装置の新品の台数は、2018年3月期は17台、2019年3月期は21台、2020年3月期は34台、2021年3月期は16台、2022年3月期は12台（予定）

FPD露光装置世代別内訳



半導体露光装置光源別内訳 (中古含む)



2022年3月期 通期見通し：為替の影響



	為替レート	1円の変動による影響額	
	22年3月期 Q4前提	売上収益 Q4前提	営業利益 Q4前提
USドル	115円	約5億円	約1億円
ユーロ	130円	約2億円	約1億円

注：上記は新興国通貨がUSドル、ユーロに連動することを想定

企業理念「信頼と創造」をベースとしたサステナビリティ戦略

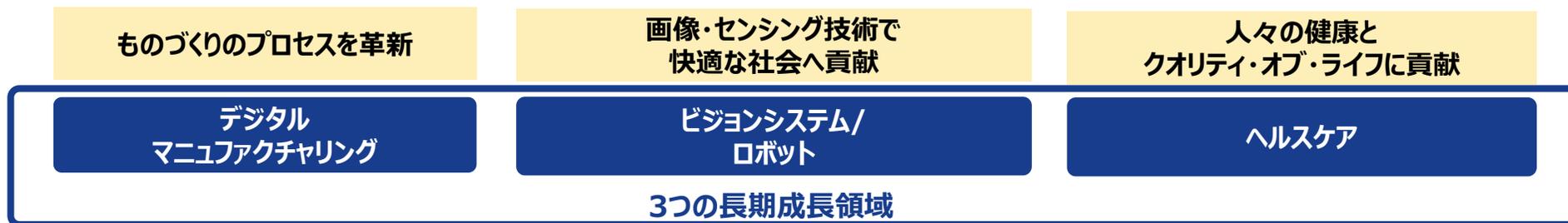


「12のマテリアリティ（重点課題）」



2021年11月発表
『2022年3月期 第2四半期決算報告』
より再掲

① コア技術による社会価値創造 – 既存事業に加え成長領域において“ニコンならではの”の提供価値で、持続可能な社会に貢献



③ 脱炭素化の推進、④ 資源循環の推進、⑤ 汚染防止と生態系への配慮 – 環境負荷の少ないものづくり

温室効果ガス削減
2030年数値目標

- ・ 事業所における温室効果ガス排出量を70%以上削減（2013年度比）
- ・ 事業活動で使用する電力30%を再生可能エネルギーへ

中長期の資本配分方針（FY2019~2023）



2019年5月発表『中期経営計画』より再掲

「新たな収益の柱」創出に向け、短期的なFCFにこだわらず新領域中心にリソースを集中

	戦略投資	研究開発	設備投資	配当他	比率
新領域 (材料加工事業、長期成長領域)	最大 40%規模	10%	5%		40~50%
既存領域		25%	10%		30~40%
株主還元				10%以上 総還元性向 40%以上	10%以上
Total	40%	35%	15%	10%以上	100%

対象：手元資金－運転資金＋5年累積営業CF（R&D控除前）

- 本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現在における入手可能な情報に基づき当社が判断した内容であり、潜在的リスクおよび不確実性が含まれます。このため、今後様々な要因の変化によって、実際の業績は記述されている内容と大きく異なる場合があることをご承知おきください

